

で話を進めていけたらいいよね」と。こちらの都合ばかり優先しているように思えることでも、向こう側にもメリットがあれば大丈夫!とこの言葉で背中を押してくれました。

第2の人生

2015年4月末、夫との別れはやってきました。夫の人生は56年間。私とは高校時代のクラスメイトで38年間のお付き合いとなりました。その別れの時からが私の第2の人生のはじまりです。

夫は、ジェンダーのしんどさを人生のなかで強く感じていた人でした。だからこそ威圧感のない人は頭で、ジェンダーという概念を知り、学びましたが、夫はその問題を肌で感じていました。

夫はPTA活動をしており、どちらかというとなら友達(PTAで知り合った方々等)が多く、CAP (Child Assault Prevention)の活動をjして、障がいのある子どもたちと卓球をjし、実母の面倒もよく見ていた人。夫が亡くなり早くも8年という月日j経ちました。人は大事なものをなくして(亡くして)から初めていろいろな事に気づくものなのかも知れません。この繰り返しの経験が人を成長させて、人生を豊かにしてくれるのjもしれません。(夫が亡くなったことで人生が豊かになったわけjやあないですけどね!)

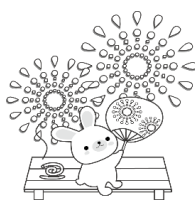
ジェンダーの視点があるとは?

また、多様性を認めるということはどういうことか?

この2つは似ているようで微妙に違うことを意味しています。そのことを仲間と話し確認しながら、他者を認める、人それぞれの価値観の違いを認めることを学ぶ日々を送っています。その先に豊かな社会があるはずだと信じているからです。

女だから、男だからとステレオタイプのにとられられたり、決めつけたり、決めつけられたいのかというjことを大切にjして寄り添い寄り添われたい。そんな社会の中で毎日を過ごせたらどんなに素敵なおとでしょう!

SEANには本当に多様な人たちが集まっています、いろいろ情報が入り、変化に富んだ毎日です。ジェンダー問題のみならず、カジノの問題や憲法、沖繩辺野古基地、障がい児者、そして紫根栽培等々、関心事は山ほどとなりました。研修で学んだことを活かし、日々、「機嫌よく過ごすこと」を目指して残りの人生も豊かに過ごしたいと思っています。



ご紹介BOOK



闘いの庭 咲く女 彼女がそこにいる理由

文/ジェーン・スー 発行/文藝春秋



2023.3.30発行

ジェーン・スーさんは、2016年4月より毎週月曜日から木曜日の生放送番組『ジェーン・スー 生活は踊る』でパーソナリティーを務めている。存じ上げていなかったのだが、父を中心に家族のことを綴ったエッセイ『生きるとか死ぬとか父親とか』が書籍化されドラマ化されたそのドラマを、知らずして欠かさず観ていた。(2021年4月10日 - 6月26日放送) 「私たちにはもっともっと、社会に求められ、功績を築いた女の物語が必要だ」と本文にあったが、これは絵本や教科書にもいえることだ。めげず腐らず、花を咲かせた13人の女たちに聞いた「私」の見つけかた。13人の人生に触れてみませんか。(中村)

52ヘルツのクジラたち

文/町田そのこ 発行/中央公論新社 2021年度本屋大賞第1位。

52ヘルツのくじらって?と興味を持ち図書館で借りました。児童虐待、ヤングケアラー、LGBTQ、ジェンダー、DVと様々な状況や問題が本のなかにはちりばめられております。なので読むのが辛いと感じる人もいるかも。52ヘルツのクジラとは、他の鯨が聞き取れない高い周波数で鳴く、世界で一頭だけのクジラ。たくさんの仲間がいるはずなのに何も届かない、何も届けられない。しかし自分の中の52ヘルツのクジラに気がついてくれる人との出会いが状況を好転させていく。人生を生きていく上で、良い出会いが幸せな事だと感じるとともに、そういう機会が奪われてしまう人がいることも事実。複雑な読後感が残った作品。(酒井)



2020.9.18発行